Nagasaki Higashi
Global Report
International Department

ＧＳⅡ　第４号

September 13, 2019

ベトナムＦＷ 8/3～8/7　平和班報告

１日目　ベトナム到着

国際科平和班代表４名（前田・松山・植木・田邉）はホーチミン市にて４日間の研修を行いました。事前研修として「長崎ベトナム友好協会」の冨岡勉氏にベトナムと長崎の関係について教えていただいたり、昨年参加した先輩方にお話を聞いたりして、期待に胸をふくらませ、ベトナムへと出発しました。飛行機は、ハノイで国内線に乗り換え、途中、台風の影響を受け飛行機の遅延はありましたが、約１１時間かけて、無事にホーチミンに到着しました。

２日目　クチトンネル、戦争証跡博物館見学

２日目に、私たちは全長約２００キロメートルのクチトンネルを訪れました。クチトンネルはベトナム解放勢力の象徴とされている、いわゆるベトナム軍の作戦本部です。戦争の悲惨さを伝える場所である一面、観光地としての魅力も兼ね備えており、長崎との歴史の伝え方の違いを感じました。アメリカ兵対策の落とし穴や、移動時に使われていた、人ひとり入るのがやっとのトンネルなど、当時の様子がとてもよく想像できました。戦争の歴史を知るうえで、実際に戦争のあった現地を訪れることが、とても重要であることをあらためて実感しました。

（↑実際に人が通っていました）

その後、私たちは戦争証跡博物館を訪れました。ここはベトナム戦争終結から４０年余りがたった今、二度と悲惨な戦争が繰り返されないように、後世に伝えていく架け橋となる場所でした。展示品のほとんどがベトナム戦争の資料などで、長崎の原爆資料館を訪れたことのある私たちでさえも、思わず目を背けたくなるようなものも多くありました。特に印象に残っているのは、子どもたちへの影響です。ベトナム戦争で実際に被害を受けた子どもたちが、身体的な傷はもちろん、心の傷を抱えながら生活を送っていかなければならないことや、戦時中には生まれていなくても、その後、枯葉剤の影響を受けて生まれてきた子が、今もなお苦労しているということです。ベトナム戦争が終わってから半世紀程経った今でも、世代を超えて環境や人体に影響を与えている枯葉剤の恐ろしさを目の当たりにしてとても胸が苦しくなり、戦争というものへの強い嫌悪を再確認しました。博物館には戦争の記録が多く残されている一方、これからの世界の平和を望むポスターや活動の記録なども展示されています。私たちは日々、平和な世界になることを望んでいます。しかし、現在もなお、戦いが起こっている地域があるのも事実です。過去の惨劇を少しでも多くの人に知ってもらい、二度と戦争が繰り返されることのない世界になってほしいと強く感じました。

３日目　現地学生との交流会、平和村訪問、ドクさんとの夕食会

３日目の午前は現地の大学生二人と市内をまわりながら交流をしました。二人とも日本のアニメや音楽が好きであったことをきっかけに日本語を学び始めたこともあり、話題は尽きませんでした。サイゴン大教会（聖母マリア教会）や大きな郵便局など、フランスの植民地時代の名残が今でもなお残っている歴史的な建物や、急速に発展している街の中を歩きながら、ベトナムから見た日本のイメージや、どのような日本企業がベトナムで有名かなど、地元に住んでいる人だからこそ知っていることを多く学べた良い機会となりました。日本とは一味違うベトナムの街は私たちに計り知れないほどの刺激を与えてくれました。

午後からは平和村を訪問しました。当初は平和村の子どもたちとの交流が予定されていましたが、院内感染が発生してしまったため、職員の方からのお話を伺いました。そこで、枯葉剤の影響を受けた方々が、進学あるいは就職など、新たな場所で頑張っているというお話を伺い、自分たちにはまだまだできることがあるのではないかと自問自答し、今の自分たちがどれだけ恵まれているのかを痛感しました。

その後のドクさんとの夕食会では、実際に枯葉剤の影響を受けたドクさんだからこそ語ることのできるお話をいくつも伺うことができ、たくさんの質問にも答えていただけました。ドクさん自身、平和な世界へと少しでも近づけるように様々な活動を行っており、平和教育にも賛成とのことでした。しかし、社会主義国である今のベトナムでは解決しがたいことがたくさんあるということが一番の問題だとおっしゃっていました。平和教育が当然のようにあり、戦争の恐ろしさを学んできた私たちからすると、平和な世界を求めていても、平和教育がされていないということはとても不思議でした。現在、日本でも戦争の経験者が減りつつある今、ドクさんから直接お話を伺えたことはこれまでにないほどの貴重な体験となりました。

（↑グエン・ドクさんとの夕食会）

４日目　市内見学、日本語学校訪問

最終日、午前中は市内の美術館や博物館で、ベトナムのアートや、昔、実際に使われていた道具などを見ることを通してベトナムの歴史について学び、考えを深めることが出来ました。その後、ショッピングモール（ベトナムにも進出しているイオン！）で昼食をとった後、日本語学校（村山富市 JVPF 日本語学校）を訪問し、生徒たちと交流しました。生徒は、下は小学校低学年から上は社会人、あるいは主婦まで幅広く在籍しており、授業のクラスも、会話を習得することを目的とするクラスと、いわゆる日本語検定のような、資格取得を目標とするクラスの二つに分かれていました。目的は違えども、一番大切なのは、新たな言語を習得するとき、それを外国語としてとらえるのではなく、その国の文化や方法に従って学ぶことだと、校長先生がおっしゃっていました。日本語学校の生徒たちもまた、日本の文化、特にアニメに興味を持っている方も多く、私たちの話を楽しそうに聞いてくれました。他国において、自分の国の文化が好かれていることがこれほどまでに幸せなことであることをしみじみと感じました。ベトナム人の多くは、ベトナム語はもちろん、英語も話すことができ、そのうえで日本語を学んでいる人も多くいることに、私たち日本人との差異を感じました。そして、これからより一層勉強に励もうと奮い立たせられました。